

M-TEC インフォメーション

号外 2009年5月1日版

緊急特集 新型インフルエンザ

ごあいさつ

はじめまして、4月から検査部の主任をさせていただいています岸野と申します。この度は新型インフルエンザの発生をうけて、緊急で特集させていただきました。今後も有意義な情報をご提供できるよう、一同、努力していきますのでよろしくお願い致します。

株式会社マルマ 検査部主任 岸野

新型インフルエンザ

連日、新型インフルエンザに関する多くの報道がされています。4月30日には、WHOが警戒レベルをついにフェーズ5まで引き上げました。フェーズ5とは、「複数国で人から人へ感染が進み、世界的大流行の一步手前」という状態です。そこで、新型インフルエンザの特徴と対策について緊急にまとめて、号外を発行させていただきました。ぜひ、参考にしてください。

新型インフルエンザの概要

【新型インフルエンザとは】 新型インフルエンザウイルスとは、動物のインフルエンザウイルスが、人の体内で増えることができるように変化し、人から人へと容易に感染できるようになったものです。このウイルスが感染して起こる疾患を新型インフルエンザといいます。一般に冬に流行しているインフルエンザとは異なり、人類のほとんどが新しいウイルスに対する免疫を持たないため、簡単に感染しやすく、世界的大流行(パンデミック)につながる恐れがあると警戒されています。今般、メキシコや米国等で確認されたインフルエンザ A 型(H1N1)は、人から人への感染が確認されたため、厚生労働省はこれを新型インフルエンザ感染症と位置づけました。

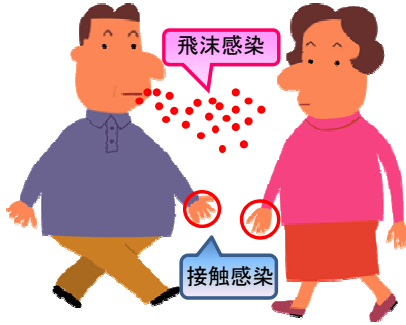
【過去の事例】 過去に発生した新型インフルエンザには、世界で約4000万人、日本で約39万人が死亡したスペイン風邪(1918年)や、アジア風邪(57年)、香港風邪(68年)があります。10～40年周期で発生するとされ、警戒を求める声が高まっていました。また、以前にも今回の新型インフルエンザと同じウイルスによる集団発生の例があります。1976年にニュージャージー州・フォートディクスで起きた、兵士たちの間で流行した事例です。X線検査でウイルス感染からの肺炎が確認され、少なくとも4人の兵士にウイルス性肺炎を認め、1名が死亡しました。この5人とも感染前は健康でした。このウイルスの由来や、感染拡大の要因は解明されていませんが、死亡した兵士からはインフルエンザ A 型ウイルスが検出されています。

【感染した際の症状】 高熱、頭痛、関節痛などの全身症状のほか、のどの痛みや鼻水など風邪のような症状が出ます。気管支炎、肺炎などが併せて起こり重症化することもあります。通常のインフルエンザと症状が類似しており、見分けることは困難ですが、流行地への渡航歴や感染した豚との濃厚接触、感染者との接触歴等が参考になります。症状等から新型インフルエンザに感染していると疑われる場合は、PCR(遺伝子検査)等を行うことにより、確定診断をすることができます。

【今後の予想】 厚生労働省の予想によると、新型インフルエンザが流行した際には、全人口の約25%が発症し、医療機関を受診する患者数は最大で2,500万人になると発表がありました。しかし、これらはいくまでも過去の流行状況に基づいて推計されたものであり、今回発生した新型インフルエンザが、どの程度の病原性や感染力を持つかどうかはまだしっかりと分かっていません。人口密度の高い地域においてはより多くの人々が感染する可能性もあり、地域差も出ると考えられています。

新型インフルエンザの感染経路

細菌とは違って、ウイルスは目の結膜や口の中の粘膜などを通じて身体の中に侵入します。ウイルスは生物の細胞の中でのみ増殖することができるので、床や机の上といった環境中では、一般的に、数分間から長くても数十時間内に感染力を失います。そのために主な感染経路は2つだけに絞られます。



1. 飛沫感染

患者の咳、くしゃみなどによって飛び散ったしぶき(飛沫)の中に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込んで感染を起こすことです。咳やくしゃみでの飛沫は、**空気中で1～2メートル以内しか到達せず**、空気中を落下していきます。

2. 接触感染

接触感染とは、ウイルスに汚染された手や器具等を介し広がる感染のことを言います。たとえば、患者が、咳やくしゃみで飛んだ唾液や、鼻水などの付着した手で、ドアノブやつり皮などを触れた後に、すぐにその部位を別の人が触れ、その手で自分の口や鼻や眼を触ることによって、ウイルスが媒介されます。ただし、上でも示した通り、環境中ではウイルスは感染力を長時間持つことはありません。

新型インフルエンザの対策法

新型インフルエンザの対策法には、普段の生活の中で行うことができるものもあります。以下にそのうちの4つを紹介しておきます。

【1. 手洗いやうがいをする】 手洗いやうがいは接触感染防止の基本です。外出からの帰宅後のみでなく、不特定多数の人が触れる場所に触れた後でも手洗いをするようにしましょう。手洗いは1分以上行い、流水でしっかりすすいでから、消毒用アルコール(60～80%のエタノール)を両手に付けて、完全に揮発するまでしっかりと擦り合わせてください。アルコール消毒はウイルスを不活化させる作用があります。



【2. マスクをする】 患者がマスクを着用することによって、飛沫感染を防止できます。ただし、健康な人が日常生活においてマスクを着用することによる感染防止効果は現在のところ十分な科学的根拠が得られていません。そのため、マスクの効果を過信せずに、他の感染防止策と併せて行うことが必要です。マスク装着の際には、説明書をよく読んで顔の大きさに合ったものを選びましょう。また、マスクの表面にウイルスが付着する可能性があるため、原則使い捨てとして(1日1枚程度)、捨てる場所や捨て方にも注意することが大切です。

【3. 清掃・消毒をする】 接触感染を防止するために、多くの人が触れる場所の清掃、消毒をしてウイルスを不活化することが望めます。通常の清掃に加えて、水や洗剤、消毒剤を用いて、ドアノブやスイッチ、階段の手すりなどの人がよく触れるところを拭き取って清掃しましょう。インフルエンザウイルスに有効な消毒剤は次亜塩素酸ナトリウム(200～1,000ppm)、70%のイソプロパノールや70%のエタノールなどがあります。ただし、消毒剤の噴霧は、不完全な消毒やウイルスの舞い上がりを引き起こすので、行うべきではありません。上記の消毒剤を十分に浸したタオルや雑巾などで拭き取って消毒しましょう。



【4. 不要な外出を極力避ける】 今後、流行が拡大するような場合には、感染者と接触する機会が増える可能性があります。その際に、咳やくしゃみによる飛沫感染を防ぐためには、**感染者の2メートル以内に近づかない**ことが最も重要です。感染の流行のニュースが出たら、不要な外出を避けて、不特定多数の人が集まるような場所にはむやみに行かないようにしましょう。

厚生労働省ホームページ《事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン》参照

～まとめ～

新型インフルエンザは流行の兆しをみせていて、日々刻々と状況が変化しています。ニュースなどで感染状況などについての情報に注意することが必要です。その際、パニックを起こさず、正しい情報に基づいて、適切な判断・行動をとることが大切です。また、新型インフルエンザ発生時に想定される被害を勘案しつつ、事態の進展に応じた計画を事前に立てておきましょう。

新型インフルエンザの予防方法として、まず手洗い・うがいを徹底してください。万が一、感染が疑われる場合には、病院へ行く前に、まずは保健所に連絡して指示をあおぎましょう。そして、感染の拡大を防止するために清掃・消毒を十分に行ってください。

予防に力を入れるだけでなく、緊急時に適切な対策をとれるように
対応を検討しておきましょう。

新型インフルエンザ対応消毒承ります。 まずは、ご連絡ください。

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA **M/TEC**
株式会社 **マルマ** エムテック衛生検査所

本社 / 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11
TEL:(053)464-6400 FAX:(053)465-4120
静岡支店 / 〒422-8046 静岡市駿河区中島 905-1
TEL:(054)202-0210 FAX:(054)202-0220
名古屋支店 / 〒458-0034 名古屋市緑区若田 2 丁目 902
TEL:(052)625-3363 FAX:(052)625-3353
ホームページアドレス: <http://www.maruma-ec.co.jp>